ハマジンチョウ

【所　在　地】阿久根市波留 5267　ほか
【種　　別】県指定天然記念物
【指定年月日】昭和 28 年９月７日

ハマジンチョウはハマジンチョウ科ハマジンチョウ属に属する常緑低木で，熱帯・亜熱帯の波の穏やかな入り江など淡水と海水の入り交じる海岸の湿地帯に生える。樹高は１～２ m で，枝は曲がりくねり，一部は地上をはうように繁茂する。長さ６～ 12cm，幅２～ 3.5cm の肉質の葉は枝先に密に互生し，長楕円形～倒披針形で両端がとがっている。１～５月頃に淡紅紫色で直径 2.5 ～３ cm の漏斗状の花を数個つけ，果実は熟すと球形となり，コルク質で海水に浮いて散布される。

本種の分布は，台湾から琉球，奄美，種子島，天草，五島列島までであるが，阿久根市潟の自生地は九州本土における唯一の自生地である。なお小笠原諸島には，本種より一回り小さいコハマジンチョウが分布する。

中種子町熊野のメヒルギ自生地ではメヒルギとハマジンチョウが混在しており，両者は生態的に共通した特徴を示すと考えられる。